



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.4.18 No. 4583

戦後最大の暴挙！ 特措法改悪弾劾！

一七日、橋本内閣と大政翼賛会と化した国会は、わずか二週間という形ばかりの審議をもって、軍用地特別措置法の改悪を強行した。これは、憲法を始めとする法体系を立法府自らが否定した戦後最大の暴挙だ。

一方橋本政権は、沖繩から参議院本会議の傍聴にかけつけ、止むに止まれぬ抗議の意志を表明した。沖繩反戦地主会会長照屋秀伝さん、知花昌一さんをはじめ、二名の仲間たちを検束・逮捕した。まさに天地を逆さにするがごとき暴挙だ。

覚めやらぬ怒りのなかで、この日夕刻に開催された集会で、反戦地主会、沖繩違憲共闘会議は、「このような暴挙でおし潰されるような沖繩民衆ではない！」と高らかに宣言した。

われわれは、この日を、基地撤去・安保粉砕に向けた闘いの巨大な発展に向けた新たな出発の日としなければならぬ。

地に堕ちた正義

「国益」の名のもとには全てを踏みにして構わないという論理はまさに戦争の論理である。二〇年前、イエーリングは、その著書の冒頭に「法の目標は平和であり、その手段は闘争である」と記した。しかしこの国では、「法」の目標は戦争になり、平和を願う沖繩の闘いを圧殺する手段として憲法すら否定する「法」が制定されるに至ったのだ。

片手に正義を量るための秤（

はかり）をもつ正義の女神は、もう一方の手で正義を貫くための剣を握っている。秤を伴わない剣はむきだしの暴力を、剣を伴わない秤は正義の無力を意味する。この国の正義は、不正義と書いて「法」と読ませるまでに危機に瀕した。特措法の改悪は、むきだしの暴力に他ならない。今こそわれわれは、剣を抜き、自らの力をもって正義を擁護しなければならない。

有事法制だ！

特措法が守ろうとしているものは何か。特措法が打ち砕こうとしているものは何か。特措法が守ろうとしているのは日米安保条約とその実体としての沖繩の軍事基地であり、朝鮮・アジア侵略へのどす黒い野望である。特措法が打ち砕こうとしているのは、積年の怒りを解き放って吹きあげた沖繩の島ぐるみの闘いだ。日米共同宣言によって、公然と軍事外交政策の道に踏みだした政府は、これに真正面から立ち上がった沖繩県民の闘いに對し、第二の琉球処分をもって臨んだのである。特措法の改悪は、戦争のできる国家をつくりあげるための有事法制そのものだ。

全ての労働者への挑戦状！

しかし、そればかりではない。危機にあえぐ橋本政権は、特措



法の改悪をもって、一切の課題について正面突破を図ろうとしているのだ。「六大改革」を呼号する橋本政権は、「このままでは日本が滅びる」という論理で、翼賛体制を煽り、国家と国民生活のすみずみに及ぶ転覆を画策している。特措法の改悪は、その突破口として打ち下ろされた攻撃だ。

また、特措法改悪の背後には労働者の怒りの声の噴出に対する支配階級の恐怖が隠されている。労働者の新たな闘いのうねりが、戦後最大のストライキ力となり、デモとなって世界中であふれはじめている。日本でも、沖繩の闘いが新しい時代の始まりを告げ、新たな闘いの力を秘めつつ国鉄闘争が闘いぬかれていく。橋本政権は、一切の闘いの圧殺を目論んで特措法の改悪を強行したのだ。

第24回臨時大会へ！

4月27日 13時
千葉市民会館